

## 関連学会・展示会における P R の実施状況

### 1 . 全体方針

本年度は、展示会 2 件、学会 7 件に対して、広報活動を実施した。選定は、効果的な P R を行う観点から、展示会は可能な限り全技術分野をカバーするものを選定し、学会は 複数の技術分野にまたがるもの、新たに実証申請数の増加が期待できる技術分野に関係する学会を優先的に選択した。具体的には、以下のとおり。

### 2 . 実施結果

展示会及び学会での広報活動の結果を、それぞれ表 1、表 2 に示す。また、広報活動を通じて、来場者のご感想・ご指摘をいただく中で得られた成果、及び今後の課題として考えられるものを以下のとおり抽出した。

#### < 広報活動を通じて得られた成果 >

- (1) 事業を知らない多くの来場者に、事業の意義や概要等をご理解いただけた。
- (2) 廃棄物処理、温暖化対策等をはじめ、多くの環境技術の実証の要望をいただけた。
- (3) 公設試験研究機関等から、中小企業からの技術開発の相談に当たり環境技術実証事業 ( E T V ) を活用・紹介するなど、関連施策の連携に関心ありとの表明をいただけた。

#### < 広報活動を通じて、得られた今後の課題 >

- (1) 現状の実証冊子等の広報媒体は、専門用語が多く、図やイラスト等が少ないため、わかりやすい資料への改善の余地があるのではないかと。また、具体的な技術の実物を展示するなど、来場者の理解を促すよう工夫するべきではないかと。
- (2) 環境技術実証事業そのものの導入意義がわかりにくいと、それを広報媒体に記載する方が、事業の趣旨を理解しやすくなるのではないかと。
- (3) 広報媒体に技術分野の見直しを行っていること、新規技術分野に関する実証ニーズがあればご要望をいただきたいことなどを記載すべきではないかと。

表1 展示会における具体的なPR方法

名称	活動概要等
<p>エコプロダクツ 東北 2012 (主催：NPO法人 環境会議所東北)</p>	<p>(開催期間) 2012年10月19日(金)～21日(日) (場所) みやぎ産業物流センター (活動概要・所感等) ・環境技術実証事業ブースを設け、30名程度の来場者に対し、パネル、事業リーフレット及び実証冊子を活用し、事業の概要を説明した。 ・説明に対し、事業の認知度はあまり高くない印象であったが、概ね事業概要をご理解いただけた。 ・また、新たな技術分野の新設方法のご要望をいただけた。</p>
<p>エコプロダクツ 2012 (主催：エコプロダクツ主催者事務局)</p>	<p>(開催期間) 2012年12月13日(木)～15日(土) (場所) 東京ビックサイト (活動概要) ・環境技術実証事業ブースを設け、200名程度の来場者に対し、パネル、事業リーフレット及び実証冊子を活用し、事業の概要を説明した。 ・環境省より、プレゼンテーションステージで、15分間事業概要を説明し、13名の方にご来場いただいた。</p>

表2 学会における具体的なPR方法

名称	活動概要等
<p>第7回全 国大会（主 催：日本ヒー トアイラン ド学会）</p>	<p>（開催期間） 2012年7月21日（土）～22日（日）</p> <p>（場所） 京都大学吉田南キャンパス</p> <p>（活動概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境技術実証事業ブースを設け、115名の来客者に対し、パネルと予稿集を活用し、事業の概要を説明した。</li> <li>・説明に対し、事業の認知度はあまり高くない印象であったが、概ね事業概要をご理解いただけた。</li> </ul>
<p>第15回日 本水環境 学会シン ポジウム</p>	<p>（開催期間） 2012年9月10日（月）～12日（水）</p> <p>（場所） 佐賀大学 本庄キャンパス</p> <p>（活動概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境技術実証事業のセッション（5社17名(内訳:既存実証申請者4社、試験・研究機関1団体)から発表）を設け、冒頭環境省より口頭発表を行った。また、50名の参加者に対し、事業リーフレットを配布し、予稿集も活用しながら事業の概要を説明した。</li> </ul>
<p>第53回大 気環境学 会年会（主 催：大気環境 学会）</p>	<p>（開催期間） 2012年9月12日（水）～14日（金）</p> <p>（場所） 神奈川大学 横浜キャンパス</p> <p>（活動概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境技術実証事業ブースを設け、40名の来客者に対し、事業リーフレット、VOC等実証済カタログ（日本語）及びVOC等実証冊子を活用し、事業の概要を説明した。</li> <li>・説明を通して、概ね事業の意義や概要等をご理解いただくことができた。</li> </ul>
<p>第20回地 球環境シ ンポジウ ム（主催： 土木学会地 球環境委員 会）</p>	<p>（開催期間） 2012年9月13日（木）～14日（金）</p> <p>（場所） 京都大学 桂キャンパス</p> <p>（活動概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッションで、30名の来客者に対し、事業リーフレットを配布し、講演集を活用しながら事業概要を説明した。</li> </ul>

名称	活動概要等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演集に掲載した環境技術実証事業の紹介論文が、平成 24 年度地球環境技術賞（下図参照）を受賞した。</li> </ul>
SETAC Asia Pacific 2012 Meeting Kumamoto	（開催期間） 2012 年 9 月 24 日（月）～27 日（木） （場所） 熊本全日空ホテルニュースカイ （活動概要） <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア太平洋の国々を含め、のべ 2,000 名の参加があった。</li> <li>・英語版ポスターとパネルを展示し、200 名の来客者に対し、事業リーフレット、VOC 等実証済カタログ（英語、中国語、韓国語、ベトナム語、インドネシア語及びタイ語）及び VOC 等実証冊子を活用しながら、事業の概要を説明した。</li> </ul>
平成 24 年度室内環境学会学術大会（主催：室内環境学会）	（開催期間） 2012 年 12 月 15 日（土）～16 日（日） （場所） 東海大学 高輪キャンパス （活動概要） <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境技術実証事業ブースを設け、20 名の来客者に対し、事業リーフレット、VOC 等実証済カタログ（日本語）及び VOC 等実証冊子を活用し、事業の概要を説明した。</li> <li>・新たな技術分野の新設方法のご要望（業界団体）や、関連施策との連携に関心ありとの表明（公設試験研究機関）をいただいた。</li> </ul>
第 78 年会（主催：化学工学会） （予定）	（開催期間） 2013 年 3 月 17 日（日）～19 日（火） （場所） 大阪大学 （活動概要予定） <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機性排水、閉鎖性海域、湖沼、VOC 等簡易測定 of 各技術分野を中心に、事業の概要に関する口頭発表を行う予定。</li> </ul>

環境省が実施したもの



図 土木学会地球環境委員会「第20回地球環境シンポジウム」  
平成24年度地球環境技術賞の表彰状